

帯広駐屯地司令部庁舎玄関脇の朝鮮ゴヨウマツの松ボックリが大きくなっている。司令部前の築山を縄張りとしている蝦夷リスがいつの間にか番(つがい)で行動している。確か、事故で片割れが亡くなって長い間、空聞をかこって(?)いた筈だが、何時しか再婚したようだ。最も、リスが再婚するなど言うのがあるのかどうかは不明であるが・・・去年は、蝦夷リスの食糧貯蔵基地所謂デポを発見出来なかった(朔東から第 42 号参照)ので、今年は何としても見つけてみたいものだ。勿論、横取りしようなどの疚しい気持ちはさらさらにないので、為念。

毎朝のジョギング通勤時の経路上の緑ヶ丘公園内の蝦夷リスも活動が活発だ。冬支度にしては早すぎるようだ。今夏は冷夏なので、季節感が狂ってしまったのだろうか。

先日根室のある方と話をしていた時に、『海上自衛隊の輸送艦「ねむろ」が近々に除籍されるとのことで、折角地元の名前を冠した艦艇であるので、存続を強く働きかけているところである』との事であった。

そこで、北海道の地名等が付された海上自衛隊の艦艇を調べてみた。護衛艦では、「いしかり」「ゆうばり」「ゆうべつ」が、輸送艦では前述の「根室」が、補給艦では、今年度末に就航する予定の「ましゅう」があり、これらは何れも大湊地方隊に所属している。

海上自衛隊では、訓令で自衛艦の名称等を付与する標準なるものが定められており、護衛艦は天象・気象、山岳、河川、地方の名を、掃海艇等は島、海峡の名を、輸送艦等は半島の名を、練習艦等は名所・旧跡の名を付すこととされている。面白いものだ。

矢張り、陸上自衛隊と違う。

(閑話休題)

北海道も爽やかなアウトドアスポーツを楽しめる時機到来である。ご承知の様に北海道はアウトドア天国である。アウトドアの中には、ある程度の技術や経験が必要なものから手軽に楽しめるものまで色々ある。アウトドアの隆盛に引き換え、事故も頻発しており、しっかりしたガイドを養成することも課題となっており、資格認定試験等が行われている。そのようなガイドの指導のもとならば、素人でも十分に楽しむことが出来る。

道東のアウトドアのスポットを紹介する。

① ラフティング

ラフティングは近年頃に盛んになってきた、非常に頑丈なゴムボートに乗り、急流を漕ぎ下る川下りである。最近ではガイドの認定試験が厳しく実施されており、ガイドが最後列で舵を取ってくれ、乗員は指示に従ってパドルを呼ばれる櫂を漕ぐ。

尻別川(が清流日本一になった(7月9日読売新聞)が、私が倶知安に居た頃はなかったが・・・)や道内ラフティングの草分けである空知川、鶴川等がある。

朔東管内では、十勝川の音更町で、ラフティングは勿論、熱気球、カヌー、パラグライダー等が楽しめる。同じく十勝川の上流部の屈足では、温泉入浴券サービス付きのラ

フティングとファンカヤックのセットになったコースなどがある。

斜里川でもラフティングが行われている。上流の緑から札弦までの約10キロを下る。釧路川はカヌー下りで有名であるが、一部においては、ラフティングを行っている。

② スカイスポーツのメッカ

十勝支庁管内では、狩勝峠、サホロスキー場、十勝川河口の十勝太の夫々の地区でスカイスポーツが楽しめる。

各所の T/O 高度：狩勝峠＝650m、サホロ＝1000m、十勝太＝90m

網走支庁管内では、美幌峠と津別峠が双壁だ。津別峠は P.G,H.G 何れも可だが、美幌峠は、パラグライダーのみだが、高度さは 200m 弱と低いが、観光客の注目を浴びながらの飛行だ。津別峠は、T/O 高度 950m、高度差 800m である。

③ 熱気球

上士幌、十勝川温泉、清里町、斜里町ウトロで熱気球を楽しむことが出来る。熱気球は夏のものではなく、冬にも楽しむことが出来る。尚、小生の体験記は、朔東から第 37 号「風任せ、然し」(<http://homepage2.nifty.com/teruo3/sakutou/main/main-31.htm#37>) を参照して頂きたい。熱気球のフライト法には私達夫婦が体験搭乗したフリーフライトと 30m 上昇し、手軽に空中散歩の気分を味わえる係留飛行がある。

矢張り、圧巻は上空〇百 m で、360 度の大パノラマを楽しめるフリーフライトであろう。

④ ホエールウォッチング

日本の食卓から鯨肉が殆んど消えて久しい。私の小さい頃には特別な食でもなかったのだが、今では貴重なものだ。欧米と日本との文化の差であろうか、反捕鯨の風が強く、日本は苦しい対応を迫られている。個体数は増加しているにも関わらず、感情的に反対を唱えているような気がする。何れにしろ、歴史的にも日本人と関係の深い鯨であるが、北海道でも、噴火湾で見ることが出来るほか、知床半島周辺や根室海峡で観察することが出来る。

⑤ 乗馬

北海道は有名な馬産地である。かつては、軍馬補充部が設置され、現在では、競走馬の育成で全国に名を馳せ、今なお、ばんえい競馬が道内 4 箇所で行われている。そのような土地柄を反映してか、乗馬を愉しませてくれる所も多い。管内でも、中札内村、新得町、鹿追町、網走や鶴居村などで体験できる。精精、馬に馬鹿にされぬようにすることが肝心だ。乗馬者をしっかり見抜くそうだ。馬の背中の高い視点から眺める風景も格別である。また、ドサンコホーストレッキングを行っているところもある。

その他にも多くのアウトドアの楽しみがある。夏には夏のそして勿論冬に冬の楽しみがある。爽やかな今こそ戸外に出て大いに自然を満喫すべきだろう。一寸勇気を出して、未体験なものに挑戦してみたらどうだろうか。違う世界が開けよう。

(参考：各種のパンフレット、各種の HP、etc)

